Rotary
東京田無ロータリークラブ

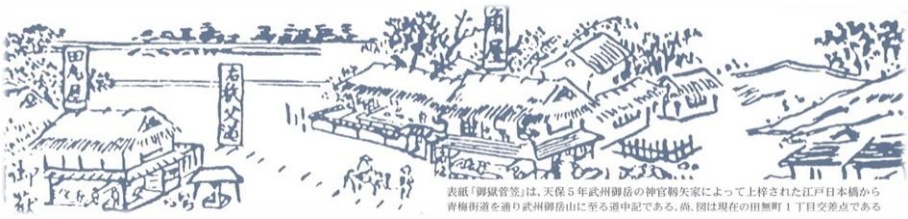
週　報

ロータリーのマジック

2024～25 年度

RI 会長　ステファニーA.アーチック

国際ロータリー第 2580 地区　東京田無ロータリークラブ



例会日：毎週木曜日　12:30～13:30
例会場：フレンドリー　2 階
事務局：〒188-0011
東京都西東京市田無町 5-1-12
海老沢ビル 401
TEL 042-463-6711　　FAX 042-463-6716
E-mail/info@nishitokyoshi-rc.org
HP/https://nishitokyoshi-rc.org/
会長：吉田宗泰　幹事：成田英夫

Vol.56　No.31/　2025.3.27 発行

第 2600 回 例会 3 月 27 日(木)

第 2599 回 例会報告 3 月 13 日(木)

夜間例会

於:海底撈火鍋

《ゲスト》

グエン　チュオン　ヴィさん　米山奨学生
エレナさん　青少年交換学生
小峰喜雄様　ホストファミリー
吉田桃子様　山田彩様

会長報告　　吉田　宗泰　会長

グエン　チュオン　ヴィさんに奨学金をお渡しします。

出　席　報　告

総　員	25 名	免　除	2 名
出　席	9 名	出席率	36%
欠　席	16 名		

2月27日グエン　チュオン　ヴィさんの卓話

卓話　　グエン　チュオン　ヴィさん

卓話では、本日は私自身の経験、特に興味がある奉仕活動についてお話しさせていただきたいと思います。

まず、私が高校生の時に経験した奉仕活動についてご紹介します。高校に入ってから、知り合いの先輩に誘われて奉仕活動サークルに参加しました。そこで、私と4人の友人たちは、ダナンがん病院の患者さん、特に子供たちを支援するための資金集めを目的とした野外キャンプを企画・実施しました。このキャンプには約150人が参加し、大きな成果を上げることができました。

この活動の詳細を、以下にご説明します。

誰が（Who）
主に高校 1 年生から 3 年生までの学生が対象でした。特に、友人を作りたいと考えている 1 年生や、慈善活動に積極的に関わりたいと思う2年生・3年生が中心となりました。

いつ（When）
キャンプは午前9時から午後5時までの1日間で行われました。

どこで（Where）
学校の近隣に複数のチェックポイントを設け、各グループがパズルを解きながら次の場所へ移動し、さまざまなゲームに挑戦する形式で進行しました。

なぜ（Why）
参加者にとっては学内の友達と交流できるチャンスであり、主な目的はダナンがん病院の患者さん、特に子供たちを支援するための資金を集めることでした。

どのように（How）
参加者一人あたり 10 万ドンの参加費を設定し、その一部をキャンプの運営費用に充て、残りを病院への寄付としました。ゲームの設営は主に手作業で行い、多くの学生ボランティアが協力したため、コストを抑えることができました。

いくら（How much）
最終的に178人の参加者から合計1,780万ドンが集まり、運営費を差し引いた1,200万ドンを寄付金としました。この資金で、患者さんのためにミルクや栄養食品、米などの必需品を購入しました。

1,200万ドンは日本円で約7万3千円です。私は奨学金を1ヶ月 10 万円頂いているので、この金額は少ないと感じるかもしれませんが、当時のベトナムでは、この金額でミルク1,200本やお弁当250食を購入することができました。そのため、経済的にも精神的にも大きな支援となり、私たちはこの活動を誇りに思っていました。

この活動を通じて、私はダナン行政センターで働いている方と知り合いになり、埼玉工業大学のアジアへの短期留学プログラム「海外リーダーシップ研修」を紹介していただきました。この研修は、成長著しいアジア地域の新興国を訪問し、グローバルな視点でリーダーシップを養い、多様な文化を体験的に学ぶことを目的としています。私は現地ボランティアとして、日本人学生たちと情報を共有したり、グループワークでベトナム人の小学生に日本文化を紹介するプロジェクトを企画したりしました。

当時、私は全く日本語を話せませんでした。そのため、仲良くなれるか、コミュニケーションが取れるか心配でした。しかし、通訳アプリだけでなく、目と目を合わせたり、表情やジェスチャーを使うことで、緊張がほぐれ、コミュニケーションを図ることができました。グループワークを通じて、動作で何を伝えたいのかも理解できるようになり、国も言葉も違っていても、笑い合い、楽しい時間を共有することが一番の幸せだと感じました。

私たちのチームは優勝できませんでしたが、チームメンバーから感謝の気持ちを込めたビデオをもらいました。この経験を通じて、日本は心温かい人々がいる国だと感じ、日本への留学を決意しました。

日本に来てからは、学業に集中し、留学生活を充実させることに力を注いでいました。そのため、奉仕活動に参加する機会はほとんどありませんでした。しかし、ある日、コロナ禍で自宅で過ごしている時に、以前支援したがん病院の子供からメッセージが届きました。彼は病状が良くなり、退院して学校に通っているとのことでした。このメッセージをきっかけに、私は多くの子供たちの未来が幸せになることを願い、再び奉仕活動に取り組むことを決意しました。
私は日本に留学しているベトナム人学生から本や物語を集め、任意で寄付をいただく形式で再販し、その収益をすべてベトナムに送金し、山岳地帯の子供たちの学習環境の改善を支援するプロジェクトに力を入れました。
ベトナムの山岳地帯では、ほとんどの子供たちが少数民族で、学校の教室は劣化しており、雨や風をしのぐことができません。電気やトイレもなく、衛生環境も劣悪で、子供たちは病気になりがちです。小学校で留年する子供も多く、卒業しても十分に読み書きや計算ができない状況です。しかし、私は、ど

んなに困難な状況にあっても、良い教育を受けられれば、将来は成長して社会に貢献してくれると信じています。そのため、「チャリティブック」が始まりました。

本はベトナムフェスティバルや毎週土曜日の部屋レンタルで販売し、オンライン販売も行っていました。それによる資金により、山岳地帯の子供たちの学習環境の改善が進んでいます。

何回もこのビデオを見ましたが、毎回知らないうちに、笑顔が出てきました。私は様々な活動を通じて、他人のために行動することが自分自身の成長にもつながることに気づきました。1人1人の行動が誰かの支えとなることを、残りの留学生活でも、これから社会人になっても続け、広めていきたいと思っています。

最後になりますが、日本生活を過ごして、日本と日本人は、私の想像と期待した通りです。奨学会の皆様、そして支援してくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。皆様の温かいご支援のおかげで、私は日本で学び、成長することができました。今後は、この経験を活かし、社会に貢献できる人間になれるよう努めてまいります。本日は、貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。

例　会　予　定

4月3日(木)　理事会　卓話　池澤隆史会員
4月10日(木)　地区研修協議会に振替
4月17日(木)　地区研修協議会の報告
4月24日(木)　地区大会に振替

＜週報担当　関口豊一会員＞